

## 今週の注目材料=米第3四半期GDPは米景気の底堅さ示すか

2023年10月23日

26日に米第3四半期GDP速報値が発表されます。昨年第1四半期、第2四半期とマイナス成長を記録した米GDPは、その後4四半期連続で前期比年率2%を超える成長を見せています。前期は速報時の+2.4%から確報時に+2.1%まで下方修正されましたが2%超えを維持しました。

前期は個人消費の伸びが鈍く、全体を押し下げました。個人消費は第1四半期の+3.8%から+0.8%となっています。一方設備投資が+7.4%と第1四半期の+5.7%に続いてかなり好調で、全体を支える結果となりました。その他で目立ったのが輸出の落ち込み。第1四半期の+6.8%から-9.3%に大きく低下しました。輸入も第1四半期の+1.3%から第2四半期は-7.6%と落ち込みましたので、ネットでの影響は抑えられています。

今回第3四半期の市場予想は前期比年率+4.3%とかなりの好結果が期待されています。市場予想通りの伸びとなると、2021年第4四半期の+7.0%以来の高い伸びとなります。個人消費の伸びが全体を支えると見られます。小売売上高など関連指標の動向から個人消費は+3.7%と前回の+0.8%から一気に伸びると期待されます。設備投資も好調さを維持していると期待されます。前回弱く出た貿易関連も、まだ8月分までしか貿易収支が出ていませんが、4-6月に比べて貿易赤字額が小さくなっていますので、改善が期待されます。

予想前後の好結果となった場合、基本的にはドル買いが期待されます。11月の米連邦公開市場(FOMC)での据え置き期待は変わらないと見られますが、12月の追加利上げ期待が残る形となり、ドルが支えられると見られます。

少し気になるのは第2四半期は-2.2%とマイナス圏ながら第1四半期の-5.3%、昨年第4四半期の-24.9%と比べて改善傾向が見られる住宅投資です。米国では長期金利の上昇傾向もあり、住宅ローン金利は30年固定で7.63%(フレディーマック)まで上昇しています。4月の6.27%と比べて1.3%以上高い水準に、住宅投資の減退が懸念されることです。米住宅着工件数や中古住宅販売件数などの数字を見ても、4-6月期に比べて鈍化しています。この影響がどこまで影響が出るかが注目されます。

米国以外では米GDP発表と同じ日にECB理事会の結果発表があります。

前回9月14日の会合で10会合連続となる利上げを決定したECB理事会、今回は金利据え置きが見込まれています。

前回の理事会での声明では、3つの主要な政策金利は、十分に長い期間続くことにより、インフレ率が目標水準に速やかに回帰するために重要な役割を果たす水準に到達したと考えているとの表現があり、今後の政策金利据え置きが示唆されました。また、理事会後に行われたラガルド総裁の会見では、金利の水準と期間の内、焦点は金利水準ではなく、金利を維持する期間に移っていると発言するなど、政策金利が9月の利上げでピークに達したことを示唆しています。

ユーロ圏の物価は最新9月の消費者物価指数(HICP)前年比が+4.3%、コアHICP前年比が+4.5%と、インフレーターゲットである2%に対して依然としてかなりの乖離があります。ただ、これまでの金融引き締めによりユーロ圏の景気鈍化懸念が広がっており、これ以上の利上げが難しいと見られているようです。利上げを決めた前回の会合でも複数のメンバーはユーロ圏景気の明らかな減速やこれまでの金融引き締め効果の波及を確認することを理由として据え置きを主張しています。

前回の理事会で示されたECBスタッフによる予想(年8回のECB理事会の内、3月、6月、

9月、12月の理事会で公表)をみると、実質経済成長率見通しは2023年+0.7%、24年+1.0%、25年+1.5%といずれも6月から下方修正。インフレ率見通しは2023年+5.6%、24年+3.2%、25年+2.1%と23年、24年が上方修正となりました。物価上昇見通しが強まり、経済成長見通しが後退する厳しい状況です。こうした状況を受けて今後に慎重な見方が広がっています。

こうした状況を受けて、今回のECB理事会では主要3金利の現状維持が見込まれています(中銀預金金利4.0%、主要リファイナンスオペ金利4.50%、限界貸出ファシリティ金利4.75%)。声明も目立った変化がなく、見通しが示される12月の理事会までは様子見ムードとなりそうです。

#### 山岡和雅 | ミンカブソリューションサービシズ 編集長

1992年チェースマンハッタン銀行入行。1994年ロイヤルバンクオブスコットランド銀行(旧ナショナルウェストミンスター銀行) 移籍。10年以上インターバンクディーラーとして活躍した後GCIグループに参画。2016年3月よりみんかぶ(現ミンカブ・ジ・インフォノイド)グループに入り、現在、minkabu PRESS編集部外国為替情報担当編集長。主な著書に「初めての人のFX 基礎知識&儲けのルール」すばる舎、「夜17分で、毎日1万円儲けるFX」明日香出版社など

---

#### <免責事項>

本レポートは情報の提供のみを目的としています。投資に関する最終判断はご自身の責任においておこなわれるようお願いいたします。また本レポートに掲載している情報の正確性については万全を期しておりますが、人為的、機械的その他何らかの理由により誤りがある可能性があり、株式会社ミンカブソリューションサービシズは、利用者がこれらの情報を用いて行う判断の一切について責任を負うものではありません。また、株式会社ミンカブソリューションサービシズが提供するすべての情報について、許可なく転用・転載等することを固く禁じます。

#### <著作権について>

本レポートの著作権は、原則として当社(株式会社ミンカブソリューションサービシズ)が保有しており、著作権法、その他の法律および条約により保護されています。本レポートご利用のお客様は、私的使用目的の複製、引用等著作権法上認められている範囲を除き、当社およびその他著作権者の許諾なく、これらの著作物を翻案、公衆送信、営利を目的とする使用等いかなる目的、態様においても利用することはできません。